

日マレーシア物流政策対話 議事概要

〈両国の物流施策について〉

- 日本から、昨年6月に閣議決定した総合物流施策大綱の概要を紹介し、物流を取り巻く環境変化や対策、グリーン物流に関する取組等を説明した。
- マレーシアから、グリーン物流に関する政府の方針について説明があったほか、昨年11月に開催されたマレーシアにおけるグリーン物流パートナーシップ会議の結果について報告があった。

〈マレーシアにおける物流課題について〉

(1) 外資規制について

- ・ 日本から、物流関係業種に係る外資規制の現状について説明し、今後の規制緩和の見通し等について質問した。
- ・ マレーシアから、外資規制については、現在首相府において、物流分野のみならず包括的な見直しを検討している旨の説明があった。

(2) 指定通関者制度について

- ・ 日本から、マレーシアでは輸出入者が利用する通関業者について事前登録が求められており、「1輸出入者につき原則3者まで」と利用できる通関業者の数も制限されるなど、通関業者の新規参入が阻害されている旨説明し、改善に向けた取組について質問した。
- ・ マレーシアから、同制限は税関側の管理の便宜を目的としたものであるが、4者目以降も申請すれば登録は可能であり、もし具体的な問題が生じた場合には教えてほしいとの説明があった。

(3) マレーシアにおける道路インフラについて

- ・ 日本から、クラン港周辺等の交通渋滞の状況を説明し、改善に向けたインフラ整備計画等について質問した。
- ・ マレーシアから、現在、クラン港の南港と西港を結ぶ道路の拡張工事を実施中であり、コロナの影響により時期が後ろにずれる可能性はあるが、2022年4月には工事が完了する予定である旨の説明があった。

〈コールドチェーン物流について〉

- 日本から、コールドチェーン物流サービスの標準化の意義、関連規格の概要、及び認証体制の整備に向けた取組等について説明するとともに、2月にマレーシア政府と共催にて開催予定のコールドチェーン普及啓発セミナーについて、最終確認を行った。
- マレーシア運輸省から、コールドチェーン物流サービスに関する国家規格化の現状について説明があり、2025年には国家規格を策定する見通しであるとの認識が示された。また、JSA-S1004の事業者への周知については、産業界に対して継続的に情報共有を行っており、さらなる普及に向けた取組を進める意向が示された。
- マレーシア国内取引・消費者省より、「フードバンク・プロジェクト※」について説明があり、日本から、コールドチェーン物流サービス規格の普及施策として、同プロジェクトとの連携の可能性について質問したところ、日本の協力に対する期待が示された。

※品質には問題ないものの、包装の破損や過剰在庫、印字ミスなどの理由で、流通に出すことができない食品を企業などから譲り受け、必要としている施設や団体、困窮世帯に無償で提供する活動。